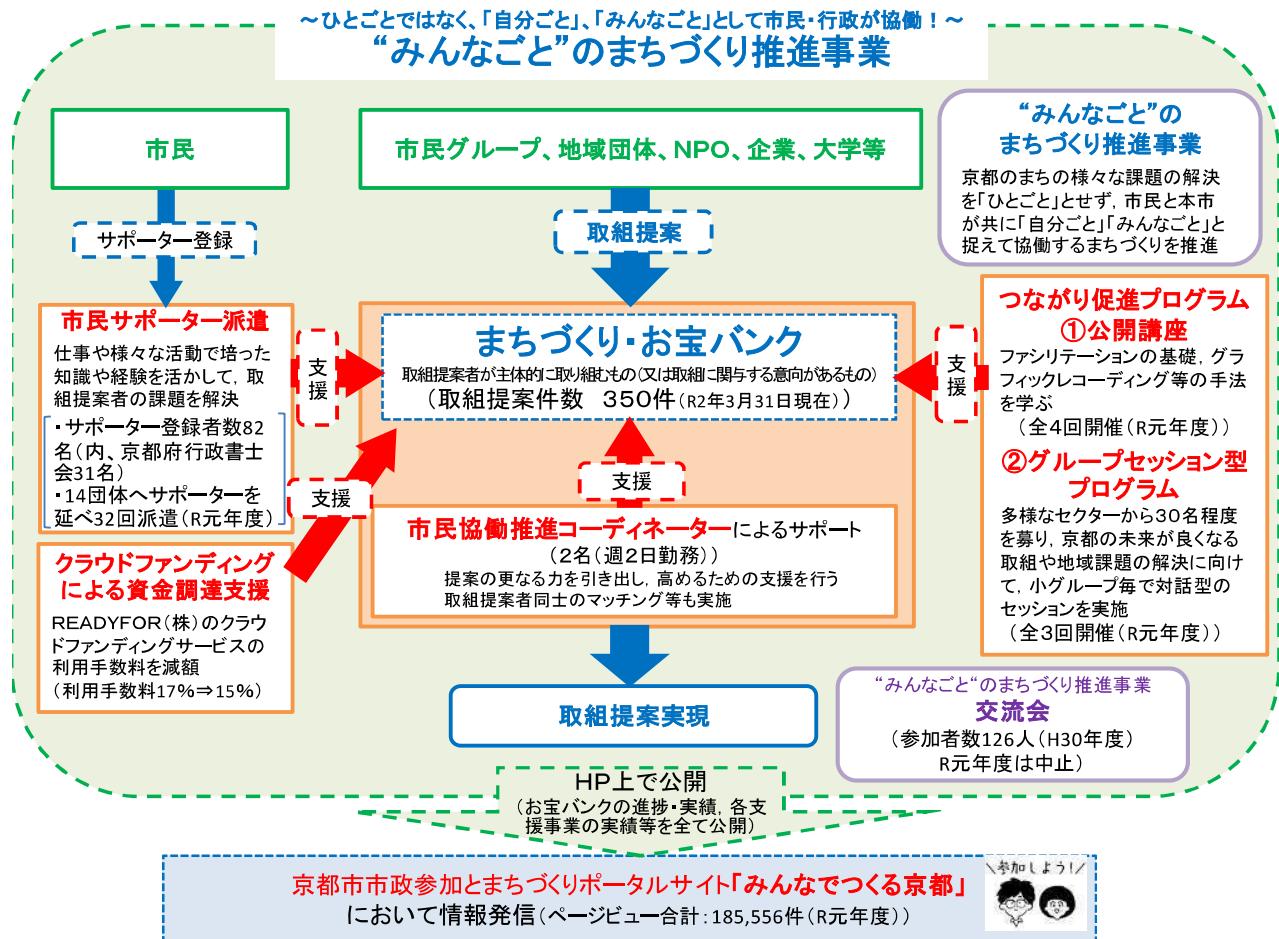


## 1 “みんなごと” のまちづくり推進事業について

## (1) “みんなごと” のまちづくり推進事業の体系図



※「まちづくり・お宝バンク」の取組提案に対して、総合政策室に配置されている

“市民協働推進コーディネーター”（2名（週2日勤務））が、取組提案者にヒアリングのうえ、提案の実現に向けて、関係団体、関係部署を繋げるなど、的確なコーディネートを行っている。

## (2) 取組提案への対応状況

### きめ細やかな対応

- ・“みんなごと”のまちづくり推進事業では、複数の取組がつながり合い、“みんなごと”として課題に取り組む活動が広がることを目指しており、提案者の活動内容を知るだけではなく、想いをしっかりと聞き、真に必要とされていること・目指す未来像等を把握することに全力を傾けてきた。

### 成果を見据えたメリハリのある対応

- ・大きな社会的課題の解決につながるものなどについては、本市のあらゆる部署に出向き、各部署の現状・課題・ニーズ等の把握を行い、取組提案者との連携が可能かどうかについても積極的に模索し、調整を図ってきた。

### 「お宝バンク」の仕組みを活かした、提案者同士による自発的連携

- ・「お宝バンク」取組提案がウェブサイト上で登録・公開されていることから、提案者同士の連携のなど、市民活動団体や企業等との自発的な連携が広がりつつある。

#### 【350件（令和2年3月末日時点）のコーディネート状況】

対応状況	件数
ア 取組の具体化や、一緒に活動する連携先（行政や他の提案者等）の紹介などを行ったもの（コーディネート中、コーディネート済） (内、行政施策への反映など提案が実現した（具体的な成果があった）もの： <b>189件</b> ア〇) 広報を希望する団体のお宝バンクHPへの取組提案掲載のみの実績を含む	270
イ 連携の可能性がある団体を探したり、本市関連部署との協議を重ねるなど、提案の具体化に向けて検討しているもの（未コーディネート）	36
ウ その他（提案者と連絡がつかないもの、実現困難なもの、営利のみを目的としているもの、アイディアの域を超えないもの）	44
計	350

参考：前年度（平成30年度）末時点（321件）のコーディネート状況

- |   |
|---|
| ア 248件<br>(内、行政施策への反映など提案が実現した（具体的な成果があった）もの： <b>169件</b> ア〇) |
| イ 29件   |
| ウ 44件   |

#### 【提案団体の属性（令和2年3月末日時点）】

属性	個人	市民グループ・ 地域団体	N P O	企業関 係	大学関係	その他 (各種団体)	合 計
件数	40	99	52	98	16	45	350

(2) コーディネートの主な具体例及び成果について（令和元年度）

ア 「お宝バンク」取組提案者の活動

平成31年4月

## 京都で医療的ケア児と共に成長するインクルーシブ保育園 “にじのうた保育園”を開園

取組提案者:にじのうた保育園、レディーフォー株式会社

にじのうた保育園では、医療的ケア児や、障害の有無に関わらず、ともに育ちともに遊ぶ環境を提供するインクルーシブ保育園を開園するため、レディーフォー（株）のクラウドファンディングで募集し、平成31年3月15日に目標額100万円を達成しました（実績額311万8千円）。

この資金を元に、平成31年4月から二条城北で、京都市初の医療的ケア児を受け入れる、小規模保育事業所（認可園）を開園しました。

提案者同士を京都市が  
マッチング！！



令和元年5月

## 発達障害や知的障害のある子どもを対象とした 「お金で学ぶさんすう教室」を開催

取組提案者:お金で学ぶさんすう



提案者とサポーターを  
京都市がマッチング！！

発達障害や知的障害のある子どもを主な対象に、生活で必要なお金のやりくり（算数）について、調理体験を通して学ぶユニークなプログラム「お金で学ぶさんすう」を令和元年5月に開催しました。

令和元年度は、他にも数回プログラム開催とともに、11月からは市民サポーター派遣制度を利用し、団体パンフレットの作成を通して、団体のミッション、ビジョン等を掘り下げて考え直す機会となりました。

令和元年7月

## 市販薬情報の冊子(クスリ早見帖)を作成して 全国の医療現場に広く配布

取組提案者:平 憲二氏 (「株」プラメドプラス 代表取締役社長),

レディーフォー株式会社



市販薬が多様化し、新しい成分や配合でのクスリが次々と市場に出回っているが、医療機関にはその情報がうまく届いていないという現状があります。

患者にも医療従事者にも大事な情報なので、多くの医療機関に市販薬の情報源を置いてもらい、診療に役立てもらいたいという取組提案者の思いがあり、市販薬の情報を集めた「クスリ早見帖」を無償で全国の医療機関に配布するため、クラウドファンディングを実施し、令和元年7月に目標額(60万円)を達成(実績額71万4千円)しました。

提案者同士を京都市が  
マッチング!!

令和元年8月(平成28年4月~)

## 「京都市スタートアップ支援ファンド」 による創業支援

提案者同士と京都市  
が連携!!

取組提案者:京都信用金庫、京都中央信用金庫,  
フューチャーベンチャーキャピタル,  
日本政策金融公庫、京都リサーチパーク



創業初期のベンチャー企業の資金調達支援としてファンドを設立し、ファンドを核とした創業支援体制を構築するため、取組提案者と京都市の間の相互連携・協力を目的とした協定を締結しました(平成28年4月)。

現在(令和2年4月時点)、計16社の投資先企業を決定し、創業支援を実施しました。

### 【投資先企業の実績(令和元年度)】

- ① 株サビア (R1.5.14 投資実行)
  - ② 株坂ノ途中 (R1.5.15 投資実行)
  - ③ 株Space Power Technologies (R1.6.5 投資実行)
  - ④ フリースタイルディスプレイ株 (R1.8.8 投資実行)
- ※H28~30年度は「リボンディスプレイジャパン株」をはじめ、計12社へ投資実行済

令和元年10月

## ヘルプマークの普及に努める取組提案者が 「市民ふれあいステージ2019」に出演しました!

提案者と京都市  
が連携!!

取組提案者:ピア・パレードおぐらひろみ

令和元年10月16日、梅小路公園にて開催された「市民ふれあいステージ」におぐらひろみさんが出演しました。

おぐらさんがステージに上がるとき、FM京都α-ステーションの寺田アナウンサーとの掛け合いで、多くの来場者が詰め寄る会場に向けて、ヘルプマークの説明をされました。

その後、おぐらさんは踊りながらアカペラで「もみじ」を歌われ、会場のみなさんと一緒に歌いました。

多くの来場者のみなさんにも、「ヘルプマーク」の啓発を通じて、周囲の方々からの配慮が必要な方がいるということを知っていただきました。



令和元年10月

## 「認知症にやさしいまちづくり」のためのランニングイベント～RUN伴～の開催

取組提案者:高齢者福祉施設西院

RUN伴とは、認知症になっても暮らしやすいまちづくりを目指して取り組むランニングイベントです。令和元年度の「RUN伴2019」京都では、「Connecting the dots!(点と点をつなぐ)」をテーマとして、10月20日(日)に開催されました。

上京区のルートでは、市長のスタート合図のもと、上京区長がランニングをスタートされ、新京極商店街内のろっくんプラザにおいては、ゴール地点でのフィナーレイベントが盛大に開催されました。

「認知症にやさしいまちづくり」をキーワードに地域の方同士がつながり、広く思いを共有できる機会になったと考えています。

提案者と京都市が連携！！



令和元年11月

## 全国からカエル好きが集まる蛙秋祭り(灰屋かわづ秋祭り)を開催！

取組提案者:長藤 美奈氏(「蛙の駅」運営者)



提案者と様々な団体が連携！！

京都市の山間部、京北地域において「自然愛好家・蛙好きの憩いの場」を作りたいという想いから、取組提案者である長藤氏が移住され、「蛙の駅」を始められました。駅には蛙グッズや置物がいたるところにあり、敷地内には自然を感じながらバーベキュー やキャンプができるスペースもあります。

令和元年11月には、京北の灰屋地域を盛り上げていくため、蛙秋祭り(灰屋かわづ秋祭り)を開催し、全国各地からカエル好きが祭りに集まつきました。

令和元年11月

## 不登校になった小中学生の居場所づくりを目指す

取組提案者:下村 和也氏(「学習支援塾エール 山科校」運営者),  
レディーフォー株式会社



提案者同士を京都市がマッチング！！

近年、不登校の小中学生は増加の一途をたどり、現在、14万4千人を超える(平成29年度)、社会課題の一つとなっています。

普段は塾経営を行っている下村氏は、そのような子どもたちが、学校以外にも気軽に集まれる拠り所として、また授業のフォローも兼ねた楽しい学び舎として、無料で利用できる場を作ることを構想(論理的な思考力を身につける講座やプログラミング講座も実施予定)されています。その構想実現に向けた活動資金を集めるためにクラウドファンディングを実施し、令和元年12月に目標額29万円を達成(実績額36万円)しました。

令和元年12月

## 認知症の方が役割を持って働く 「まあいいか cafe」を開催

取組提案者:平井 万紀子氏(「まあいいか labo きょうと」代表)



提案者の活動を  
京都市が広報支援!!

「まあいいか labo きょうと」代表の平井氏が、認知症になった母親との同居を契機に、東京で実施されている「注文をまちがえるリストランテ」を参考に、認知症の方が接客をされる「まあいいか cafe」を定期的に開催されています。

令和元年12月には、河原町五条の「マールカフェ」にて「まあいいか cafe」を開催し、認知症の方の接客やふれあいを通して、延べ60人あまりのお客が心地よい時間を過ごされました。

令和元年12月

## 伏見が発祥!「寒天の発祥の日」(12月27日)が認定

取組提案者:伏見寒天プロジェクト

提案者の活動を  
京都市が広報支援!!

江戸時代の寒い冬に偶然できたという寒天。伏見寒天プロジェクトの植野さんの調べでは、古文書に寒天ができるきっかけとなった場所が「伏見御駕籠町」と記されていたそうで、その場所に寒天発祥の地の記念碑を建立したいと、寒天を使った調理イベントや講演会・イベント出店など、これまで幅広く活動してきました。

そして令和元年度に、「寒天発祥の日」が日本記念日協会により認定されました。



令和2年3月

## 取組提案者の活動拠点「コクリエ・ラボ」がオープンしました!

取組提案者:凸凹フューチャーセンター

提案者の活動を  
京都市が広報支援!!

4月2日は「世界自閉症啓発デー」、4月2日から8日は「発達障害啓発週間」です。それに先立ち、凸凹フューチャーセンターの活動にも使用される拠点「コクリエ・ラボ」が令和2年3月14日伏見区桃山南にオープンしました。

開放的なホールや和室、コワーキングスペースなど、様々な活動の拠点として活用できそうな場です。集合イベントが難しい昨今の状況に合わせて、オンラインイベントも予定されています。



## チャレンジ！！オープンガバナンス(COG2019)に

### 京都市の2つのチームがファイナリストに選出！

#### 【チーム1】

(主催: 東京大学公共政策大学院)

取組提案者: Pharmatching(ファーマッチング)しておくれやす☆

#### 【チーム2】

取組提案者: チームKyo-So(共創し, 協奏し, 京想する)

提案者と京都市が連携！！

チーム1:  
Pharmatching しておくれやす☆



チーム2:  
Kyo-So(共創し, 協奏し, 京想する)



「COG2019」オンライン審査会の様子



「チャレンジ！！オープンガバナンス 2019」(以下「COG2019」という。)は、自治体が地域課題(子育て・家族・教育、高齢化・介護・医療・健康、エネルギー・環境、防災・防犯、産業振興、まちづくり・交通、地域プロモーション、観光、雇用など)と関連データを提示し、それに対して市民がアイデアをまとめるプロセスと成果が審査・評価されるコンテストです。

COG2019 では、京都市が提示した地域課題に対して市民有志等から成る2つのチームが結成されました。両チームとも、そのアイデア・取組活動と京都市のサポート・連携が高く評価され、見事最終審査(ファイナリスト)に進出、うち 1 チームがオンライン視聴者によるスマートフォン投票で 1 位に選ばれました。

チーム1:Pharmatching(ファーマッチング)しておくれやす☆  
(ファイナリストに選出, スマホ投票 1 位獲得!)

【地域課題】 市民による薬局・薬剤師等の活用推進  
(健康サポート薬局の普及)

【アイデア名】 ICT の活用により市民と薬局・薬剤師と繋がり合う事ができ、身近に相談できる地域社会を実現する新サービス“Pharmatching(ファーマッチング)”

【アイデアの概要】

少子化による人口減少、長寿社会の到来により、ファーストアクセスの相談窓口として“かかりつけ薬局・薬剤師”的機能強化と、未病・予防も含めた生活支援のサポートが求められている。ICT を活用したプラットフォームサービスの提供により、“薬剤師と相談しやすい”社会を実現し、地域住民の安心と健康に寄与することを目指す。

チーム2:Kyo-So(共創し, 協奏し, 京想する)  
(ファイナリストに選出!)

【地域課題】 森林・林業の持続可能な未来と地域振興  
【アイデア名】 京都の木と ICT の目でつながる心～林福連携「京想」プロジェクト～

【アイデアの概要】

林業を主産業とする京都北部の農山村地域は、人口と担い手の減少、木材需要の低下により疲弊している。林福連携(林業と福祉の連携)による世代を超えたつながりで創る木工製品と ICT を活用したつながり促進の仕組みを作ることにより、これらの解決を目指す。

## イ チーム京都の活動

### 取組提案者: 移住応援チーム及び京北振興チーム

京都で暮らす魅力の発信や移住相談への対応など、京都市への移住促進に取り組むため、移住応援や空き家活用に取り組む「まちづくり・お宝バンク」取組提案者と京都市職員で、「チーム京都・移住応援チーム」を結成しました。また、右京区京北地域への移住促進を進め、地域の活性化を図るため、「京北振興チーム」も結成しました。両チームが力を合わせ、京都ならではの市民力、地域の多用な魅力を活かした取組を進めています。

#### 【両チームの取組（一部紹介 令和元年度）】

- ・移住相談窓口（市内、京北、東京）の運営
- ・京都移住茶論などのイベント開催（年10回）
- ・ホームページ「住むなら京都」での情報発信



移住イベントの様子

### 「文化庁京都移転・私たちができること推進チーム」の取組

#### 取組提案者: 文化庁京都移転私たちができること推進チーム



「文化庁京都移転・私たちができること推進チーム」第1回会議

文化庁京都移転を契機に、京都に息づく「日本伝統の生活文化、精神文化や、多彩な文化芸術」の更なる振興・発信に取り組むため、「まちづくり・お宝バンク」取組提案者と京都市職員でチーム京都を結成しました。「文化の力で日本を元気にするために、自分たちに何ができるか」を考え行動することにより、他の市民や様々な団体等に、共に行動する動きが、市民運動的に広がることを目指しています。



「文化庁地域文化創生本部設置記念式典」



「いきいき春の文化祭」



松山大耕氏による坐禅体験

(取組提案者)

笹岡隆甫氏（末生流 笹岡家元）、ジャックパイエ氏・リムボン氏（合気道無限塾・立命大教授）、NPO法人障碍者芸術推進研究機構（天才アート KYOTO）、NPO法人子育ては親育て・みのりのもり劇場、NPO法人劇研、メディア支援センター、ヤッサン一座の紙芝居、竹内弘一氏（KBS京都）、松山大耕氏（退蔵院副住職）、京都学生祭典、京都青年会議所、京都商工会議所青年部、京都市PTA連絡協議会、京都料理芽生会

(京都市)

文化庁移転推進室、京都創生担当、SDGs・市民協働推進担当、文化芸術企画課、文化財保護課、教育委員会

【チームの取組（令和元年度）】

- ・「文化庁京都移転・私たちができること推進チーム」第5回会議において、チーム活動の今後の方向性を検討するワークショップを実施(R1.7.18 会場：市役所分庁舎会議室)



「文化庁チーム」第5回会議の様子（ワークショップ形式で実施）

- ・京都市PTAフェスティバル（第22回）において、天才アート KYOTOのお絵かきコーナー、作品展示を開催(R1.12.14 会場：国際会館イベントホール)



- ・「文化庁京都移転推進シンポジウム～文化のチカラで魅せる新しい未来～」において、天才アート KYOTOの作品展示及びチーム京都を紹介する「ロールアップバナー」を設置(R1.12.21 会場：国際会館 Room A)

- ・「文化庁ウェルカム動画（※）」の制作及び公開(R2.3.27)



「文化庁ウェルカム動画」3種類の画像

- (※) 文化庁チームメンバーによる、文化庁の京都移転を歓迎する要素も含めたウェルカム動画を制作し、幅広い層の方に発信して、京都文化及び文化庁の京都移転について周知するとともに、文化庁京都移転に向けた市民の機運醸成を図るもの。

（文化庁チームメンバー3団体の取組紹介やメッセージリレー動画など、3種類の動画を公開）

## 2 サポートメニューの取組状況について（令和元年度）

### （1）市民サポーター派遣

仕事や様々な活動で培った知識や経験を、まちづくりのために活かしたいと希望される市民の方々を「市民サポーター」として登録し、派遣依頼のあった「お宝バンク」取組提案者とのマッチングを行い派遣することにより支援を行うもの。

（委託事業者：きょうとNPOセンター）

「まちづくり・お宝バンク」市民サポーター派遣制度  
令和元年度は、82名（令和2年3月末日時点）のサポーター登録があり、  
14団体を対象に、延べ32回のサポーターを派遣しています！

#### 派遣団体（14団体）

※以下は派遣開始順

- ① 七條大橋をキレイにする会
- ② NPO法人アグリクルート京都
- ③ しつくいアート集団h b
- ④ 京都わかくさねっと
- ⑤ まあいいか1a b oきょうと
- ⑥ お金で学ぶさんすう
- ⑦ 伏見の環境を守る会
- ⑧ 外国人女性の会パルヨン
- ⑨ NPO法人アグリクルート京都  
(※異なるテーマによる2回目の派遣)
- ⑩ ダンスホビークラブ
- ⑪ ぶくカフェ（中途難聴者協会）
- ⑫若い世代に選挙に関心を持ってもらう会
- ⑬ NPO法人まなあそび
- ⑭ NPO法人まなあそび  
(※異なるテーマによる2回目の派遣)



#### 派遣団体からの声

- ・サポーターの説明はわかりやすく、ホームページにとどまらず、広報の仕掛けをいろいろと教えていただき、ありがとうございました。
- ・今、実際に社会で活躍、活動、成功されている生の講師派遣いただき、丁寧に対応ください、感謝の気持ちでいっぱいです。
- ・パンフレットを作るという目的だけでなく、自分たちの支援の在り方は何なのか、団体のミッション、ビジョン、アクションを掘り下げることができました。
- ・地域には、市民サポーター制度や、各区まちづくりカフェ事業など、活動を支えてくれる制度があることを知れたのも、発見となりました。
- ・サポーターの方には、事業のしつらえ方、チラシ作り、広報方法、SNSの使い方まで丁寧に教えていただき、感謝しています。
- ・2度の相談を通して、私たちに合う実践方法が見つかりました。自身を持って、取組が進められそうです。

## (2) つながり促進プログラム

令和元年度からの新たな取組として、取組提案者及びプログラム参加者（まちづくり団体、企業人、行政職員、大学関係者等）同士のつながりの促進や、セクター間を超えたつながりづくりを図る人材の養成とともに、取組提案者の提案の実現に向けたサポートを行う取組として、「つながり促進プログラム X cross sector kyoto」を実施（試行実施）した。（委託事業者：まちとしごと総合研究所（代表 東 信史氏））

「まちづくり・お宝バンク」つながり促進プログラム  
令和元年度は、全4回の公開講座を実施するとともに、  
全3回のグループセッション型プログラムを実施しました！！



### ア 公開講座

つながり促進を図る人材の養成を目指すとともに、幅広い取組提案者の活動を前進させるテーマを設定し、多数が参加できる講座を年5回開催（うち1回は「つながり促進プログラム X cross sector kyoto」を紹介、宣伝する「キックオフイベント」）。

回	日時・会場	出席者	内容等
キック オフイ ベント	R1.8.24 (土) 京都経済セン ター 会議室	83人	<p>【ゲストトーク】</p> <p>○テーマ セクターを超えたつながりから生まれる共創とは 【渋谷をつなげる30人】から見えてきたこと</p> <p>○ゲスト 野村 恭彦（金沢工業大学（KIT）虎ノ門大学院 教授）</p> <p>【トークセッション】</p> <p>○テーマ セクターを超えたつながりが生み出すインパクトとは</p> <p>○ゲスト 野村 恭彦（金沢工業大学（KIT）虎ノ門大学院 教授） 田村 篤史（株式会社ツナグム 代表） 村田 和代（龍谷大学政策学部 教授） 佐藤 晋一（京都市役所 SDGs・市民協働推進部長）</p> <p>【グループセッション】</p> <p>○テーマ これからの京都に起こしたいアクションや共創</p>

回	日時・会場	出席者	内容等
第1回 講座	R1.10.2 (水) GROVING BASE	31人	○テーマ つながり、引き出し合う場をつくるファシリテーションの考え方 ○内 容 ゲストトーク (セッション), ワークショップ, 交流 ○ゲスト 東 信史 (まちとしごと総合研究所 代表組合員)
第2回 講座	R1.10.23 (水) GROVING BASE	27人	○テーマ 多様なメンバーの持つ創造性を引き出すアイディアの育み方 ○内 容 ゲストトーク (セッション), ワークショップ, 交流 ○ゲスト ・安斎 勇樹 (株式会社ミクリデザイン 代表取締役 東京大学大学院情報学環 特任助教) ・東南 裕美 (株式会社ミクリデザイン リサーチャー 東京大学大学院情報学環 特任研究員)
第3回 講座	R1.11.20 (水) oinai karasuma	31人	○テーマ 課題整理・解決のためのグラフィックレコーディング入門 ○内 容 ゲストトーク (セッション), ワークショップ, 交流 ○ゲスト 稲垣 奈美 (グラフィックレコーダー)
第4回 講座	R1.12.11 (水) oinai karasuma	27人	○テーマ ビジネスフレームワークを使った課題解決のためのアイディア発想ワークショップ ○内 容 ゲストトーク (セッション), ワークショップ, 交流 ○ゲスト 小野 義直 (株式会社アンド 代表取締役)

## イ グループセッション型プログラム

多様なセクター（まちづくり団体、企業人、行政職員、大学関係者等）のメンバーを30人程度募集し、京都の未来が良くなる取組や地域課題の解決に向けて、テーマ別の中グループを設け、セクターを超えて価値を創造するための対話型のセッションを実施。  
(全3回のセッション実施済、成果報告会は延期（R2年5月にオンライン実施予定))

回	日時・会場	出席者	内容等
第1回 全体セッション	R1.9.28 (土) 京都経済センタ ー KOIN	22名	○テーマ つながりから、新たな価値を生み出すには
第2回 全体セッション	R1.11.9 (土) 京都経済センタ ー KOIN	29名	○テーマ 京都の未来に向けた、新たなチャレンジとは
第3回 全体セッション	R1.11.11 (土) 京都経済センタ ー 会議室(3-F)	22名	○テーマ 課題解決に進む、新たな切り口を考える

※上記の「全体セッション」以外に、「個別グループセッション」については随時開催



全3回のセッションを終え、以下の6つのプロジェクトが進行中。

各チームの取組テーマ	各チーム 人数	取組内容
中小企業の社員が活き活きと活躍するためには	4名	中小企業の社員と学生が交流する対話の場づくり。社員、学生ともに、中小企業でのキャリアを考えるきっかけになる。
笑顔について考える	8名	一人一人が笑顔でいられるために、改めて笑顔について考え、社会に笑顔を広げる機会を提供。
「生きるをデザインする」半径3mから取り組むプレミアムフライデー	5名	プレミアムフライデーに、家族や夫婦間の本音コミュニケーションを促し、豊かな時間と家族の絆をつくる仕組みをつくる。
生きることを大切にするための教育	3名	袈裟づくりを通じた、交流機会の創出と新たな学び。
気候危機への身近な原因とアクションを知る	7名	日常生活の中で、何が気候変動の原因で、何が代替可能なのか身近に知っている人を増やし、実践する機会をつくる。
地域コミュニティの実験	7名	ブックカフェを核とした、自治会の新たな運営モデル

**グループセッション型プログラム参加者の声**

- ・いろいろな人の意見が重なることで、アイディアが磨かれました。
- ・普段から思っている問題意識を共有できる参加者がいました。
- ・他の参加者の考え方、思いを聞くことのおもしろさがあり、勉強になりました。
- ・社会の中での問い合わせを与える活動をしていきたいです。
- ・大人になり、一つのテーマにみんなで取り組むのはとても良いと感じました。



### (3) クラウドファンディングによる資金調達支援

READYFOR 株式会社と基本協定を締結（平成 30 年 3 月 9 日）し、取組提案の実現に向けた新たな支援策として、同社が運営するクラウドファンディングサービス（※）の活用による、取組提案者の資金調達を支援する仕組みを創設した。

この基本協定に基づき、「まちづくり・お宝バンク」取組提案者が、READYFOR 株式会社クラウドファンディングサービスを利用した場合、目標金額を達成したときに発生する利用手数料（フルサポートプラン 17%，シンプルプラン 12%）が、以下の表に記載された手数料に減額される。

区分	手数料
フルサポートプラン (専任担当者が付く)	15% (ただし、支給額の15%が10万円を下回る場合は10万円)
シンプルプラン (専任担当者が付かない)	10%

#### （※）クラウドファンディングサービス

インターネットを通じて不特定多数の人から資金を集める仕組み。不特定多数の人々に比較的少額の資金提供を呼びかけ、一定額が集まった時点でプロジェクトを実行することで、資金調達のリスクを低減することが可能になる。



NPO 法人インド日本友の会のクラウドファンディング

#### ア プロジェクト実施事例（令和元年度）

##### ① READYFOR 株式会社によるクラウドファンディング達成事例

- ・令和元年 7 月 お宝バンク No. 324 早見帖プロジェクト 2019：市販薬情報を冊子にして届けたい！⇒目標額（60 万円）を達成（約 71 万円）
- ・令和元年 12 月 お宝バンク No. 337 学びたくても学べない、そんな方に”無料”で学べる教室を。⇒目標額（29 万円）を達成（36 万円）
- ・令和 2 年 1 月 お宝バンク No. 338 「助けてと言える世の中に」ミョウレンジャーの映画化で伝えたい⇒目標額（100 万円）を達成（約 214 万円）

##### ② 他のクラウドファンディングサービス達成事例

- ・令和元年 6 月 お宝 No. 198 秋から京都で『つぼ焼きいも屋さん』をつくりたい！！⇒目標額（20 万円）を達成（約 72 万円）

#### (4) 交流会

様々な主体同士の協働のまちづくりを推進することを目的に、「まちづくり・お宝バンク」取組提案者が、他の取組提案者や、地域のまちづくり活動の担い手等と広く交流するとともに、新たな連携や繋がりを生み出す「交流会」を開催する。

⇒令和元年度は、新型コロナウィルスに係る状況を鑑みて“中止”



(昨年度:平成30年度)

“みんなごと”のまちづくり推進事業 交流会

- 1 日 時 平成31年1月26日(土) 午後1時～午後5時
- 2 会 場 同志社大学今出川校地 至誠館3階 S32 教室
- 3 参加者数 126名
- 4 内 容

(1) ゲストトーク及びトークセッション

活動の発展や新たな活動のきっかけとなる、出会いや繋がりが生まれる企画などについて、ゲストトーク及びトークセッションを通じて考える。

【ゲスト】・中村 朱美氏((株)minitts 代表取締役)

- ・横田 親氏(小商い塾 塾長、元丹波市議会議員)
- ・真鍋 邦大氏((株)四国食べる通信 代表取締役)

(2) ジブンと仲間がつながるセッション

参加者の中から20個程度のまちづくりのテーマを募り、テーマごとに少人数のグループセッションを実施。テーマに対する参加者自身の想いや課題意識などを共有しながらセッションを行い、新たなつながりや行動を生み出すことを目指す。

(3) クロージングセッション 等



## (5) 京都市市政参加とまちづくりポータルサイト「みんなでつくる京都」

ポータルサイト「みんなでつくる京都」（平成28年12月に開設）において，“みんなごと”のまちづくり推進事業の情報のほか、パブリック・コメントや公募委員等の募集、まちづくり活動を支援する制度などについて積極的に発信。

当サイトをより使いやすいものにするために、また、より親しみを持っていただくために、サイト構築段階で市民意見を取り入れるワークショップを開催したほか、市民の方にコンテンツ作成に御協力いただく取組を実施。

### 「まちづくり・お宝バンク」注目記事

**＜市民意見を取り入れるワークショップ＞**  
○「まちづくりポータルサイトミーティング」  
開催日：平成28年6月24日（金）  
概要：利用者のニーズに合ったサイトとなるよう、どのような工夫が必要か意見を聴くワークショップを実施。

**＜コンテンツ作成における市民参加の取組＞**  
○「市民ライター講座」  
開催日：平成29年1月15日（日）、9月9日（土）、  
平成30年10月22日（月）  
概要：「みんなごと」のまちづくり推進事業における取組  
提案者の想いや活動の紹介記事を市民の方が作成。

○「“みんなごと”宣伝部」  
開催日：平成31年1月12日（土）、2月2日（土）  
概要：取組提案者が、フェイスブック等での情報発信に必要な文章の作成方法や写真の撮影等を学んだうえ、情報発信を行う。



### お宝バンクの取組成果を広く公開！！

※平成28年12月27日に一部開設。

平成29年1月27日に全部公開。

※ページビュー

1日平均 508 件（令和元年度（平成31年4月1日～令和2年3月31日）の平均）

185,556 件（令和元年度の合計）

## ○「みんなでつくる京都」のサイト構成

- ① 京都市における市民参加の考え方
- ② パブリック・コメント、審議会等の市政参加に関する制度等
- ③ まちづくり活動に役立つ制度や施設等
- ④ 「まちづくり・お宝バンク」
- ⑤ 京都市のサイト一覧

### 3 多様な主体の協働によるまちづくり創出事業（令和2年度新規事業）

- ・令和2年度政策枠予算額 5,000千円
- ・事業実施期間：令和2年4月～令和3年3月

#### (1) 事業実施に至る経過・背景

現代社会においては、市民ニーズが複雑化、多様化する中で、人口減少などこれまでに経験したことのない社会に対応するためには、効率性や合理性の追求といった従来の手法だけでは限界があると考えている。

視座や経験、専門、資源など、異なる立場を持った、多様な市民の「対話」を通じた参加と協働や、企業、NPO、市民団体、大学、行政等、あらゆるセクター間の連携により、京都ならではのイノベーション（社会課題の新たな解決策）が生み出される、新たなまちづくりの創出が期待されている。

#### (2) 事業概要

##### ア 新たなまちづくり創出に係る調査（令和2年度予算額 1,100千円）

まちづくりに参加する主体の拡大と、まちづくりプラットフォーム（市においては「みんなごと」のまちづくり推進事業」等）間の連携強化を図り、社会課題・地域課題の新たな解決策（イノベーション）が効果的に生み出されるよう、京都に関係する民間のまちづくりプラットフォームや、まちづくりのイノベーションの事例調査を行う。

##### イ クロスセクターによる協働の実践（令和2年度予算額 3,900千円）

企業、NPO、市民団体、大学、行政等、あらゆるセクターの主体に社会課題・地域課題を共有し、新たな行動を生み出していくため、様々な分野から参加を得て、ワークショップ等の手法を活用した実践型のセッション等を行い、社会課題の解決に向けた取組実践を試行する。

具体的な事業プログラムについては、「つながり促進プログラム X cross sector kyoto」の中で実施していく予定。

